

2013年2月下旬。高知県住宅課チーフの川崎和久は、大分市で開かれた耐震改修の勉強会に参加していた。

第2部 耐震1.0への挑戦 4

これを使うしかない

強するだけで、全体の強度を上げる。床や天井を壊すことなく、補強する。どこも工費が安く、工期も短

いもので、既に愛知県で実績を上げていた。川崎に電話をしてきた愛知の業者、平塚昭瀧が手掛



2013年2月に大分市で開かれた低コスト工法の勉強会(主催者提供)

ける工法も詳しく紹介された。「アイワンボルト」と名付けられた平塚のボルトは「ゴロンブスの卵」的な画期的工法」と業界で評価されていた。

大分から高知に戻った川崎とその同僚たちの動きは早かった。勉強会に協力していた愛知の協議会に4月24日付で手紙を出した。

耐震工法の実証、普及を進める組織としては、一般財団法人・日本建築防災協会(建防協)が業界では広く知られる。ただ、耐震工法の多彩さという点では愛知の協議会の方がはるかに多く、コストも安かった。

愛知で数々の独自工法が生まれるまでには、大学も民間業者も行政も、実験などに相応のコストと時間をかけている。苦労の末の研究成果と工法をただそのまま使わしてくれ、というのはさすがに虫が良すぎたか、と川崎らは思った。

敬称略
(報道部・村上和陽)